

## 平成 30 年度 (株)神戸製鋼所加古川製鉄所及び

## 関西熱化学(株)加古川工場環境保全協議会議事録

1. 開催日時：平成 30 年 7 月 9 日（月） 14：00～15：30
2. 開催場所：(株)神戸製鋼所加古川製鉄所 小ホール
3. 会議内容

### 【 開会 】

( 会長のあいさつ )

#### (1) 委員の紹介

(委員紹介)

(事務局紹介)

(事務局より協議会成立の報告)

#### (2) 議題

##### ①議案

議案 1 平成 29 年度環境保全協議会収支決算について

－ 承認 －

議案 2 平成 30 年度環境保全協議会収支予算案について

－ 承認 －

##### ②報告事項

報告 1 平成 29 年度立入調査結果について

(兵庫県報告)

- ・平成 29 年度は計 23 回の立入調査を実施した。
- ・内訳としては、降下ばいじん量目標値超過の確認が 5 件、特定粉じん排出等作業(アスベストの除去作業)の確認が 17 件、栄養塩類等(窒素、リン等)排水の海域への影響確認の立入が 1 件である。
- ・今後とも必要に応じて適切に立入等を実施していく。

(加古川市報告)

- ・水質関係 22 回、大気関係 28 回、騒音関係 2 回、その他 1 回、計 53 回の立入調査を実施した。
- ・水質関係の立入調査では、排水口での水質調査、排水差温調査、汚濁負荷量調査、

pH計の精度確認等を行った。また、溶解性鉄含有量の協定値超過があったため、報告書の提出を指示するとともに、その後、複数回立入調査を行った。特定施設の異常はなく、その後の協定値超過もみられなかった。

- ・大気関係の立入調査では、堆積場等の粉じん発生施設の現地調査及び降下ばいじん自主管理目標値超過に係る確認を行った。
- ・騒音関係では、工場周辺で測定を行ったが、基準値を超過することは無かった。
- ・その他の立入調査として、燃焼放散に伴う周辺環境調査を行った。
- ・降下ばいじん総量については、平成29年度は4.3トン/平方キロメートル/月であり、平成28年度と比較して増加となった。
- ・加古川市環境政策課で受け付けた事業場への苦情件数は、平成29年度は7件であり、主な内容は、自主管理目標値超過、粉じんの飛散、車体への鉄粉の付着といったものであった。
- ・加古川市としては、今後も法令・協定に基づく規制とともに、降下ばいじん総量の抑制につながる発生源の調査及び対策について、兵庫県と連携しながら指導を継続する。

## 報告2 協定書の実施状況について（神鋼）

### （大気）

- ・硫黄酸化物、窒素酸化物及びばいじんの排出量に協定値超過はない。
- ・加古川神鋼ビルにおける降下ばいじん（製鉄所影響値）が4月から7月にかけて自主管理目標値を超過した。
- ・4月の超過原因は昨年の協議会でも説明したとおり昨年度と比べ炭素分が増加していたことから、コークス炉が原因と考えられる。
- ・5月から7月については、大気安定度が不安定になったことが原因であると思われる。日差しが強く、風が弱いと大気状態が不安定となり製鉄所付近に降下ばいじんが着地しやすくなったと考えられる。
- ・大気状態が不安定であっても降下ばいじんの自主管理目標値の超過がないような対策として、原料ヤード北側の防風ネット上部及び敷地境界防じんネット上部に散水設備を設置し、浮遊する粉じん対策を行った。

### （水質）

- ・水質に関して、COD、SS、ノルマルヘキササン抽出物質及び溶解性鉄含有量の負荷量について協定値の超過はなかった。
- ・加古川市が実施した溶解性鉄含有量の測定値に協定値超過があったが、弊社も加古川市と同時サンプリングを行った結果、基準値以内であった。また、各排水処理施設の水質にも異常がなかった確認をしている。
- ・平成29年度の事象ではないが、平成30年7月4日からの大雨の影響で7月7日に

西排水口で pH の協定値超過があった。詳しい原因と対策については来年度の協議会で報告を行う。

(騒音)

- ・製鉄所周辺の 3 ヶ所(協定書の実施状況報告書参照)で測定を行っており、60 dB を越えた際は実際の音を確認確認している。強い雨音やトラックの走行音、蟬の鳴き声が原因である。

(悪臭)

- ・基準値の超過はない。

(発成品対策)

- ・高炉スラグは、大半をセメントとして再利用している。

<平成 29 年 12 月 11 日 コークス炉燃焼放散について(関熱)>

- ・配電設備に小動物が侵入、接触したことにより停電が発生した。その影響により、ブロワが停止し、コークス炉ガスの燃焼放散を実施した。(合わせて燃焼放散の役割を説明)
- ・対策として小動物が侵入しないよう隙間をすべて密閉化し、定期的な点検の項目に隙間の有無を新たに追加した。

— 質疑応答 —

<降下ばいじん対策について>

(委員)

降下ばいじんのように粒径の大きな粉じんは、発生源の高さや大気安定度によって飛散の仕方が異なる。加古川神鋼ビルのように製鉄所(発生源)付近に落下する粉じんは、大気が安定しているときは、地上付近の高さからの飛散、大気が不安定であるときは、煙突などの高所からの飛散であると考えられる。

巻き上げられている粉じんの高さを調査することが有効であると思われる。

(神鋼)

今までも高さ方向について調査はしてきているが、設置した散水設備も有効に活用していきたいと考えているので、さらにデータを蓄積していきたい。

(4) その他

事務局より協議会の内容を加古川市のホームページに掲載することについて説明。

(5) 工場視察

原料ヤード北側防風ネット上部散水設備 ⇒ 敷地境界防じんネット上部散水設備

－ 質疑応答 －

< 散水設備について >

(委員)

新たに設置した散水設備の粉じん除去効果はどれくらいあるのか調べているのか。  
散水により減少できた粉じんの粒径は調査しているのか。

(神鋼)

実際より小規模であるが調査を行っており、ばらつきはあるが平均して3割程度  
減少できると考えている。また、粒径については調査していない。

(委員)

今後とも調査を継続し、効果的な対策を実施してほしい。

【 閉会 】

( 副会長のあいさつ )